



# 破堤による被害の回避・軽減

# 治水・防災

現在も、破堤時の被害の深刻度が高い状況にあることを踏まえ、諸対策を進めます。

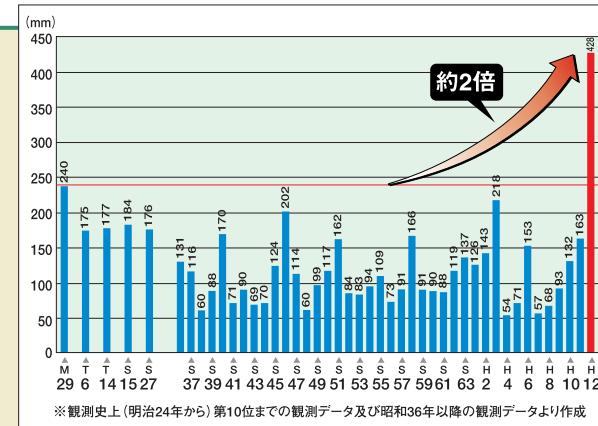
## 現状の課題

○これまでは、一定規模の大雨を目標に洪水を早く下流へ流せるように堤防等の整備を行ってきましたが、平成12年の東海豪雨のように想定以上の豪雨が起ると、土でできた堤防は、洪水に対して万全ではありません。



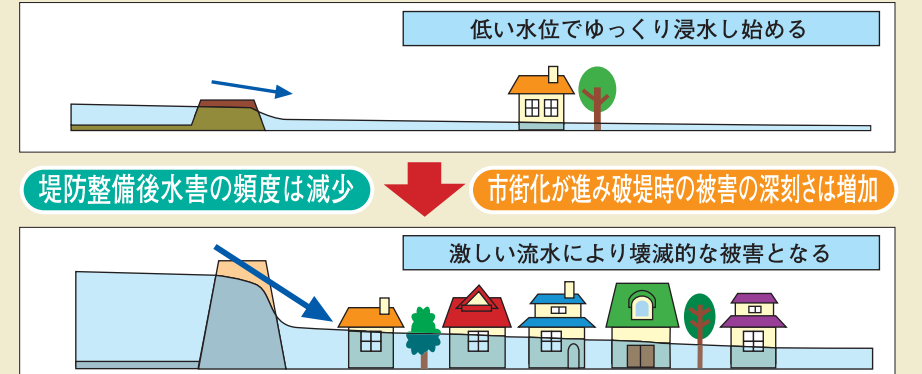
平成12年9月 新川(名古屋市)の破堤による浸水

過去の2倍近い降水量



○市街地では堤防のすぐ近くまで家が建ち並び、資産が集中しているため、破堤による被害の深刻さ(被害ポテンシャル)は今も増え続けています。

○ひとたび堤防が壊れると、人命や家屋などが失われ、ライフラインが途絶するなどのダメージを受けます。



## 破堤による被害の回避を究極的な目標とします

## 整備内容

### 実施項目

「水害に強い地域づくり協議会(仮称)の設置」……以下の項目等について検討・実施します。

#### 日ごろから備える

○河川情報表示板を沿川に継続設置し、情報提供を行います。

流域全体 ■河川情報表示板



○浸水実績のある地域において、水位や発生原因を表示します。

流域全体 ■浸水実績表示



■川西市防災マップ



○浸水想定区域に応じて、避難経路などを示した洪水ハザードマップ等の作成・普及を支援します。

流域全体

#### 洪水時の対応

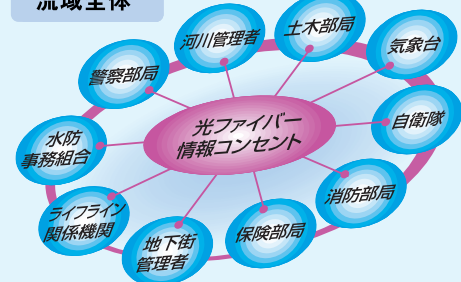
1 緊急復旧活動等を行う拠点として防災ステーションを整備します。

出在家地区



○光ファイバー網の整備を継続実施し、市町やマスメディアとの相互接続により、情報伝達体制の基盤整備を行います。

流域全体



○防災機関との連携を強化します。

流域全体

○インターネットや携帯電話を活用し、分かりやすく河川情報を提供します。

流域全体



携帯電話による情報提供

○避難誘導等の体制を整備します。

流域全体

#### 流域で水を貯める

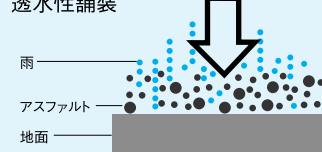
○流域内保水機能、貯留機能の強化について検討します。

流域全体

■校庭・駐車場・公園に水を貯める  
雨を駐車場などに貯め、少しずつ川に流れるようにします。



■雨水浸透施設を作る  
透水性舗装



■ため池の貯水能力を高める  
ため池を大きくしたり、深くして水をたくさん貯められるようにします。



### 実施項目

#### 堤防補強

○破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施します。

○緊急に補強を実施する必要がある箇所を決定するために、詳細調査を実施し、必要箇所については緊急に補強を行います。

■緊急堤防補強区間



なお、実施に当たり、現地に即した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(平成15年4月設立)で早急に決定します。

あなたはご意見をどう思われますか。「ご意見ページ」にご意見をご記入ください。